

■松崎慥堂 儒学者。隠居し、諸藩の招請に出張講義、俊秀を育て、〈蛭社の獄〉では、渡辺崋山赦免運動に尽力。

まつざきこうどう
御蔭参流行・1771＝ 肥後国上益城郡木倉村で、伊勢白子出の坊主で農家松崎家に婿入りした恵芳の子に生まれる。母はげん。
田沼意次老中1772＝ 1歳： 生まれつき身体が弱い上、家は貧しく、両親の仲も悪かったが、

頭が良かったことから、

ワシ船蝦夷来 1778＝ 7歳： 父の義兄弟の父で土地の神官だった横田陸奥から文字を習い始め、

・ ・ ・ ・ ・ 1780＝ 9歳： 託摩郡の宗専寺の小僧になったが、読書が好きで学問をしたいと考え、

蝦夷初調査・1785＝14歳： 儒を志して出奔、江戸に出るも宛のないところ、親切的な僧に助けられ、
田沼意次失脚1786＝15歳： その紹介で、庇護を受けることになった浅草称念寺の玄門上人は僧になることを勧めるも、
寛政改革始・1787＝16歳： 志の強さを知った上人は、還俗させて自分の師安達清河に師事させる。
・ ・ ・ ・ ・ 1788＝17歳： 最初の漢詩。江戸に出て来て以降、心身ともに不調な状態が続いて行くなか、昌平饗に入り、
初の横綱・・1789＝18歳： 異学の禁・・1790＝19歳： 林錦峯の門人となる。
異学禁止・・1791＝20歳： 庇護を受けてきた玄門上人が急逝、窮地に陥るなか、
ワキヤン来日・1792＝21歳： 林錦峯が死去。後を継いで大学頭になった林述斎に認められ、
松平定信引退1793＝22歳： その家塾に住み書写生となる。そこで佐藤一斎と出会い、終生変わらぬ友情を持つ。
ワソガ正月・1794＝23歳： 品行方正でなく、様々な女性と接触して淋疾に罹り、草津伊香保に旅行。林家学寮頭取役となる。
写楽・・・1795＝24歳： 関口加代と結婚。出奔して以降音信不通だった郷里との間によりやく連絡がつくようになった矢先、
パートン来航・1796＝25歳： 長男が誕生。熊本藩の儒員に採用直前、林家蔵書質入れ事件が発覚、林家より破門され、安房国に逃避。
古事記伝・・1798＝27歳： 塾を開いて収入を得ながら、読書と詩作に励むうち、
息子不明に心労した父母が相次ぎ死去したのも知らず。江戸に戻って林門の籍を回復、

塾を開くもなお貧窮し、借金取りに悩まされるうち、

一九膝栗毛始1802＝31歳： *遠州掛川藩に招聘され、「興邸中学館議」を執筆して、藩校徳造書院の創設にかかわるとともに、江戸藩邸に住み、藩主太田資愛の嫡子資順とその子資言の侍講となる。
アメリカ船来航始1803＝32歳： 「答沢九輔」を執筆。
イザノ来航・1804＝33歳： 資言と熱海に行く。
青洲麻酔手術1805＝34歳： 太田資愛が死去。「申上ル愚見」を執筆。後を継いだ資順に従って掛川に行き、
イザノ報復・1806＝35歳： 江戸に戻る。
ワシ船狼藉・1807＝36歳： 再度掛川に行き、
フェルト号事件1808＝37歳： 戻る。資順が死去、資言が後を継ぐも、
浮世風呂・・1809＝38歳： 三度掛川に行く。扶持得て余裕もでき、熊本姉宛に拾両送る、以後も度々。
・ ・ ・ ・ ・ 1810＝39歳： 資言も急死、後を嗣ぐことになった宮川藩主堀田正毅の子(資始)の教育に尽すべく、家族を江戸より掛川へ呼び寄せる。
ゴロバン拿捕1811＝40歳： 朝鮮使の対馬来聴に、一斎の代りに林述斎に随行、筆談し詩を唱酬。帰途熊本に錦を飾り、掛川に帰る。
高田屋拿捕・1812＝41歳： 五人扶持を加えられ、江戸勝手となって、江戸に戻るも、太田家の血統が絶えたためか、
黒住教・・1814＝43歳： *病身を理由に、仕事を息子明徴に譲り、隠居。以後、町人学者と交遊し、
伊能測量終・1816＝45歳： 駿府に行き、山梨稲川とともに、念願だった富士山に登る。
杉田玄白没・1817＝46歳： 子明徴が結婚。
水野忠成老中1818＝47歳： 東北旅行をする。
群書類従完結1819＝48歳： 狩谷？斎・市野俊卿と共に京都・吉野に行く。初孫が誕生。
・ ・ ・ ・ ・ 1820＝49歳： 佐倉藩での講義始まる。
伊能図完成・1821＝50歳： 「尺準考」執筆。
英船浦賀来航1822＝51歳： *二度目の富上登山。江戸の羽沢に石経山房(木倉山房)建設し、以後、書生を預かって教育に専念。
シボム来日・1823＝52歳： 「懷堂日暦」はこの年から現存、以後、毎年のように箱根方面を旅行。近江膳所藩世子に出張講義、
シボム鳴滝塾1824＝53歳： 新田藩世子と伊豆松崎に行く。西条藩・熊本新田藩世子への出張講義始まる。
異国船打払令1825＝54歳： 掛川藩の太田家遺臣らと新藩主のために意を決して執筆した「懷堂諫草」を完成。
・ ・ ・ ・ ・ 1826＝55歳： 山梨稲川が死去。狩谷？斎と掛川に行き途中駿府で羽倉簡堂と会う。安井息軒が入門。
日本外史・・1827＝56歳： 生田起卿が死去。初めて佐倉に行く。
シボム事件・1828＝57歳： 羽沢山房に若い女性を置く一方、塾舎を拡張。塩谷宕隠が入門。
シボム追放・1829＝58歳： 孫が誕生。太田資始のいる大坂に行く。
富簾流行・・1830＝59歳： この頃狩谷？斎と共に爾雅の校訂をする。渡辺魯輔が羽沢で生活。
富嶽三十六景1831＝60歳： 自らの学問について開眼する一方、水野忠邦と初めて会い、天保の改革の蔭の支援者となる。
鼠小僧磔・・1832＝61歳： 痔疾に苦しむ。渡辺奎輔が死去。孫誕生するも、
天保大飢饉始1833＝62歳： 死去。池田冠山が死去。
高島砲術・1834＝63歳： 妻が死去。書倉完成。ライフワーク「縮刻開成石経」にとりかかり、
滑稽+人情本1835＝64歳： 狩谷？斎、続いて渋井小室が死去。
・ ・ ・ ・ ・ 1836＝65歳： 山房の女に、次男が誕生。
大塩平八郎乱1837＝66歳： 渡辺瑛輔が山井家を嗣ぐ。長男明徴が死去、孫とその母を羽沢に引取る。佐倉侯から抛金認められ、
適塾オープン・1838＝67歳： 長男の遺児の孫娘が誕生。
蛭社の獄・・1839＝68歳： 蛭社の獄では、門人渡辺崋山の赦免運動に尽力。

天保改革始・1841＝70歳： 林述斎が死去。崋山が自刃。「縮刻開成石経」がほぼ完成し、羽沢山房立退き問題起こるなか、
天保改革弾圧1842＝71歳： 將軍家慶に謁見の栄誉。太田侯より二十人扶持。再び佐倉行き「典籍開難意見」執筆。
順天堂始・・1843＝72歳： *佐倉侯より扶持米十五口。熊本藩主に謁見。山房安住の認可得るも、ついに「日暦」を休み、
天保改革終・1844＝73歳： さまざまな病が進行して、没した。